

MS-Word 押印メニュー 「オブジェクトの挿入」マクロコマンド

作成日： 2012-7-8

作成者： とろろこんぶシステム工房 小野寺健一

概要

日付印ぺったんや承認はんこの印影は OLE オブジェクトとして Word 文書に挿入されます。この際に用いられるオブジェクト挿入マクロコマンドについて説明いたします。押印メニューをカスタマイズする際の参考にしてください。

解説

■Word における OLE オブジェクト挿入

Word には2つの OLE オブジェクト挿入方法があります。

- ① 文字と同じように行中(InLine)に配置する。
- ② 位置を固定せずに任意の位置に移動できるように配置する。

上記2つのオブジェクトは VBA 上ではオブジェクトの種類が異なります。それぞれ

- ① InlineShape --- 位置を固定しているオブジェクト
- ② Shape ----- 位置を固定しないオブジェクト

になります。

なお、Word の標準メニューに備わっている「オブジェクトの挿入」ボタンを実行した場合は①の InlineShape オブジェクトとして挿入されます。

■押印メニューについて

Word2003 用の押印メニューには①の InlineShape オブジェクト として挿入するボタンと②の Shape オブジェクトとして挿入するボタンが備わっています。



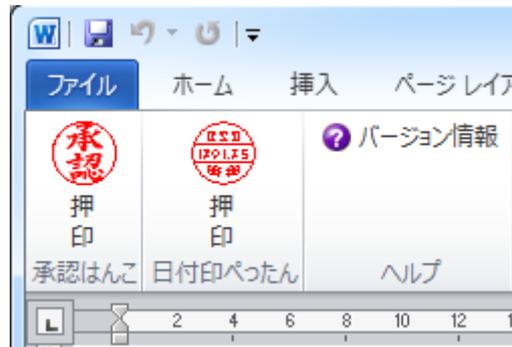
左から

- ・日付印ぺったんを Shape オブジェクトとして挿入
- ・日付印ぺったんを InlineShape オブジェクトとして挿入
- ・承認はんこを Shape オブジェクトとして挿入
- ・承認はんこを InlineShape オブジェクトとして挿入

になります。

文書に印鑑を押す場合は任意の文字の上に挿入するわけですので「Shape オブジェクトとして挿入」だけで十分かと思いますが2つのボタンが用意されています。2つあるので、混乱したユーザも多かったかと思います。

Word2007/2010 用の押印メニューは「Shape オブジェクトとして挿入」だけで十分と考えボタンは1つにしました。



■ AddOLEObject メソッド

OLE オブジェクトを挿入するには AddOLEObject メソッドを用います。オブジェクトを新規に挿入する場合は引数 ClassType を付加し、オブジェクトクラス名を設定します。

日付印ペったんを

① Shape オブジェクトとして挿入する場合は

```
ActiveDocument.Shapes.AddOLEObject ClassType:="Petta.Document"
```

② InlineShape オブジェクトとして挿入する場合は

```
ActiveDocument.InlineShapes.AddOLEObject ClassType:="Petta.Document"
```

になります。なお、承認はんこの場合は ClassType:="Shank.Document" になります。

■ 引数 Anchor:=Selection.Range

InlineShape オブジェクトとして挿入した場合は、オブジェクトはカーソル位置に入りますが、Shape オブジェクトとして挿入した場合はページの左上にオブジェクトが挿入されます。

Shape オブジェクトの場合、カーソル位置には関係なく左上に押印されてしまいますので少々使いにくい感じがします。

AddOLEObject メソッドに 引数 Anchor:=Selection.Range を設定すると、オブジェクトはカーソル位置の段落の先頭に入ります。押印メニューにはこの引数 Anchor を設定しています。

```
ActiveDocument.Shapes.AddOLEObject Anchor:=Selection.Range, ClassType:="Petta.Document"
```

おわり

問い合わせ先： とろろこんぶシステム工房 support@tororokonbu.jp